

かまくらささえあい福祉プラン ボランティア連絡協議会 懇談会 議事録

日 時 平成30年2月15日(木) 13時30分～14時45分

会 場 鎌倉市社会福祉協議会 ボランティア活動室3

出席者 ボランティア連絡協議会 役員6名

事務局 市福祉総務課 山村氏 鎌倉市社協 堀井 今井

事務局より懇談会の趣旨説明

議事概要

議題

- (1) 地域共生社会づくりに向けて
資料に基づき説明 (事務局)

議題

- (2) 意見交換

※ボランティアの担い手について

- ・ボランティアは生きがいへと繋がっている。年齢を重ねても必要とされる実感が健康寿命にも繋がると感じる。
- ・既存の団体は70代～80代が多い。急に50代～60代の方が入ってきても馴染めない可能性が高い。そのため、ボランティア活動のワークショップや研修、立ち上げ支援を行い、新しいグループを50代～60代の年齢層の方が担うという方が良いと思っている。
- ・少数ではあるが40代の子育て世代の方が新しい活動を立ち上げるお手伝いをしたことがある。
- ・各世代でやりたいこと、内容が異なる。それぞれの世代が世代に応じた活動をできるように支援する方が無理なく、活動の幅も広がるのではないかと考えている。
- ・男性は地域との関係が途切れると、その後、自宅に閉じこもりがちになる傾向がある。男性に特化した団体はあるため、活動目的・内容を明確にしたものであれば、男性参加者も増えるのではないかと。

※ボランティアの活動場所・費用について

- ・ボランティア活動の活動地域が限定されている活動の場合は、自治会館等を活用できるが、地域にある空き家の活用等ができれば理想。
- ・鎌倉市全域でボランティア活動をしている団体・個人は、学習センター等の公共施設を利用するしかないが、利用料は決して安くはない。
- ・団体によっては準備する場、活動する場、それぞれに部屋が必要になる場合がある。活動の受け手が部屋代等を負担してくれている現状もある。
- ・福祉センターやNPOセンターを利用できる団体は活動場所にかかる経費を抑えることができる。
- ・ボランティアの会費 (※会費は月1000円、年間：3500円等様々)、助成金以外はバザーの収益等で賄

っている。

- ・市役所のスペースを借りるのは難しい。新庁舎を建設する際にはコミュニティルームを作ってもらいたい。

※情報の発信・共有・ネットワークづくりについて

- ・ボランティア団体と自治会が協働できる環境になれば良い。地域の中では自治会と繋がっている団体もあれば、繋がっていない団体もある。
- ・老人センターは講座が多い。福祉まつり以外でもボランティアの活動（掃除等なんでも）を広めれば、新しい輪ができるのではないか。
- ・自分たちが楽しめる活動は参加したくなる活動でもあり、ボランティアを継続する上で非常に重要。楽しみが伝わるような発信の仕方を考えたい。

※社会福祉法人の社会貢献について

- ・交流のある施設であれば、部屋の利用を頼みやすい。交流がないと頼みにくいという現状がある。
- ・国や市がインフォーマルな活動に目を向け、制度による縦割りではなく、地域を一体的に捉え横のつながりを大切にしていきたいという方針は嬉しい。
- ・たとえば老人ホームの空きスペースを開放し、ボランティア活動を行えるようにすると、施設に居住されている方も、外部の地域の方々も参加できて良いのではないか。
- ・藤沢市では小規模多機能型施設が、子ども、子育て世代、若者、高齢者が集える場所を作っている。そういうものが鎌倉市にもあれば良いと思う。
- ・老人ホームには閉鎖的というイメージはない。地域の方で出入りしている人もいる。施設側も地域にという方向性で捉えてくれているのではないか。
- ・現状でもボランティアを受け入れてくれる施設はある。地域の回覧板も活用しながら、細かな連絡方法等も含めて周知、PRしてもらいたい。
- ・施設でボランティア活動をしたいという団体はある。施設側からもっとアプローチしてもらいたい。

※市、市社協に期待すること・要望

市：新庁舎を建設する際には、多目的で多様な活用ができるコミュニティルームを作ってほしい。